

〔記入例〕 添付様式 1-② 交付対象事業の実施状況（進捗状況）

添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（進捗状況）

（単位：百万円）

基幹事業											
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要	変更された 目標との対応	実績（モニタリング時）		完成見込みの有無	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			事業費	進捗率（%）	あり	なし
道路	都市計画道路〇〇線改良事業	50	〇〇線 L=120m	45	〇〇線 L=100m	国道への接続箇所の 見直しにより延長を短縮	—	9	20		●
道路	都市計画道路△△線改良事業	80	△△線 L=150m	92	△△線 L=150m	地盤改良が必要と なったための事業費増	—	28	30		●
歴史、風土、水ネットワーク事業	市道〇〇線改良事業	0		20	〇〇線歩道拡幅	観光客の歩行環境を 改善するため、歩道を 拡幅工事を通加	C	12	60	●	
道路	市道××線〇〇交差点改良事業	40	××線 L=80m	38	××線 L=80m	コスト削減による事業 費減	—	30	80	●	
地域生活 基盤施設	●●地下道自由通路整備事業	100	—	100	—	—	—	100	100	●	
高次都市施設	〇駅橋上駅舎改築事業	300	—	0	—	基幹事業から提案事 業（駅舎改築事業）へ 変更	—	0	0	●	
土地区画整理 事業（都市再生）	□□土地区画整理事業	2,000	公共用地率：30% 再築戸数：25戸	2,400	公共用地率：30% 再築戸数：30戸	地区内道路の線形見 直しによって支障物件 が増加	—	1,680	70	●	

提案事業											
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要	変更された 目標との対応	実績（モニタリング時）		完成見込みの有無	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			事業費	進捗率（%）	あり	なし
地域創造 支援事業	歴史、風土、水ネットワーク事業	100	—	100	—	—	—	90	90	●	
	〇駅橋上駅舎改築事業	250	—	250	—	基幹事業（高次都市 施設）から提案事業 へ変更	—	200	80	●	
		5	—	5	—	—	—	4	90	●	
事業活用調査											
まちづくり 活動推進事業	□□地区景観形成ワークショップ										

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

- ① 事業名（事業箇所名・細項目）……事業内容（事業箇所明、細項目を含む）を記入する。
- ② 当初計画
 - 1) 事業費……当初計画時の事業費（単位百万円）を記入する。
 - 2) 事業内容……当初計画時の事業内容を具体的に記入する。
- ③ 最終変更計画
 - 1) 事業費……最終変更計画時の事業費（単位百万円）を記入する。
 - 2) 事業内容……最終変更計画時の事業内容を、変更のなかった場合も含め、具体的に記入する。
- ④ 当初計画からの変更の概要…当初計画から変更があった場合は、その理由と内容を具体的に記入する。
- ⑤ 変更された目標との対応……当初計画からの変更があり、その変更内容が目標の変更と関連している場合には、対応する目標の種別に応じて A～D*のいずれかを記入する（添付様式 1-①参照）。

* 「A. まちづくりの目標」、「B. 目標を定量化する指標」、「C. 目標値」、「D. その他」
- ⑥ 実績……モニタリング時の執行済み事業費（単位百万円）及び進捗率を記入する。
- ⑦ 完成見込みの有無……モニタリング時点で事業（施設等）の完成見込みについて、「あり」又は「なし」のいずれかを選択し、●で記入する。

※「完成見込み」とは、交付終了年度末までに事業の完成が見込まれる場合のことを表す

b. 関連事業の実施状況

関連事業がモニタリングの時点で最終変更計画どおりに実施されている（または、実施される見込み）か、また、事業費が当初計画からどの程度変更されたか、目標の変更との関係があるかを確認する。

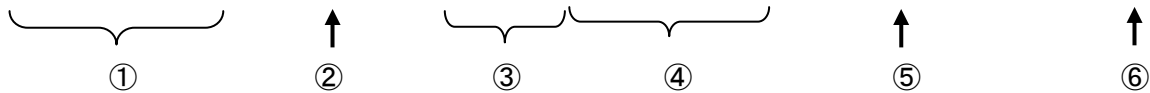
【補足・留意事項】

- ・ 関連事業については事業主体が当該市町村ではない場合があることから、情報不足等により記入が困難な場合には「－」を記入すること。

[記入例] 添付様式 1-②つづき 関連事業の実施状況（進捗状況）

(単位:百万円)

事業名	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
		当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
□□土地区画整理事業	□□土地区画整理地区	7,000	7,000	平成○年○月～平成△年△月	平成○年○月～平成×年△月	用地買収の遅れにより、事業全体で1年間程度の遅れがあるが、フォローアップ時には完成予定。	-
■■館改修工事	■■館	170	170	平成○年○月～平成×年×月	平成○年○月～平成×年×月	事後評価前の段階で施設改修が完了し、供用を開始しており、●●の施設として徐々に効果を見せ始めている。	-
地区計画	□□土地区画整理地区	-	-	-	-	-	-



- ① 事業名（細目）……………事業内容（細項目がある場合は細項目内容）を記入する。
- ② 事業箇所名……………関連事業を実施した箇所名を具体的に記入する。
- ③ 事業費
 - 1) 当初計画……………当初計画時の事業費（単位百万円）を記入する。
 - 2) 最終変更計画……………最終変更計画時の事業費（単位百万円）を記入する。
- ④ 事業期間
 - 3) 当初計画……………当初計画時の事業期間を和暦で記入する。
 - 4) 最終変更計画……………最終変更計画時の事業期間を和暦で記入する。
- ⑤ 進捗状況及び所見……………モニタリング時点での事業の進捗状況及び所見（完成状況、未完成の場合の遅れの程度や今後の見通し等）を記入する。
- ⑥ 備考……………その他特記事項があれば記入する。

添付様式2 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響

※本記入欄は、事業費が大幅に変更された事業、ならびに、新規に追加された事業に限り、記入を必須とする。

- ◆以上までの「事業の実施状況」の結果に対する補足及び参考情報として、当初計画から変更のあった事業について、変更理由やその変更が計画の目標や指標にどのような影響を与えているのか（事業の変更に伴う数値目標変更の必要性等）を確認する。

[記入例] 添付様式2 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響

添付様式2 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響（特に大きな変更があった場合について）

事業	箇所名	変更した理由、目標・数値指標への影響
道路	〇〇線	事業にあたっての国道との交差点協議で、実施設計で当初に比べて改良区間が短くなった。目標・数値指標への影響はなし
道路	〇〇線	物件補償費が精査により増額となった、事業費の変動への影響は微小であり、目標・数値指標への影響はなし
道路	〇〇線歩道	住民の参画する景観形成委員会などで、歩行環境の改善の必要性が強く提言されたことを受けて、来街者も含めた回遊性や環境整備のために新たに計画した。来街の魅力向上に貢献し、目標・数値指標の改善への貢献を見込む
土地区画整理（都市再生）	□□土地区画整理地区	地区内道路の線形計画の見直しにより、支障物件が増加したため。目標・数値指標への影響は特になし。
橋上駅舎改築事業	〇駅	交付前から実施に関してもめていた駅舎の改築が、交付開始後に、関係者による集中協議の末、実施されることが決定したため、当初に基幹事業として掲げていた自由通路整備事業を中止し、提案事業（駅舎改築）により駅構内の通路を整備することとした。



①



②



③

① 事業……………当初計画の変更が行われた事業を記入する。

② 箇所名……………箇所名も明記する。

③ 変更した理由、目標・数値指標への影響

……………下記の事項が明確となるように理由等を記入する。

i. 当該事業の変更理由

ii. 目標・数値目標への影響

iii. 工事の変更内容やその背景

iv. 期待される効果又は懸念される問題等

様式 3-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

◆ここでは、都市再生整備計画において、「目標を定量化する指標」に示した数値目標がモニタリング時点で、どの程度達成されているかを検証する。

なお、数値指標の計測は、原則的に事前評価で用いた方法によることとし、モニタリング時に計測不能な指標は必ずしも計測しなくてよいものとする。

モニタリング時点で、数値目標の達成見込みを評価し、合理的な理由により事業完了時に数値目標を達成することが確実な場合は「達成見込み」とすることができるものとする。

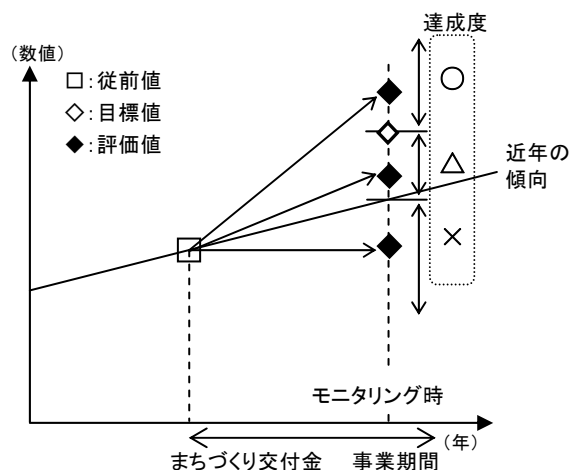
なお、数値目標を達成していない場合には、対応案を具体的に記入すること。その際には、添付様式5の検討を踏まえ記述すること。

【補足・留意事項】

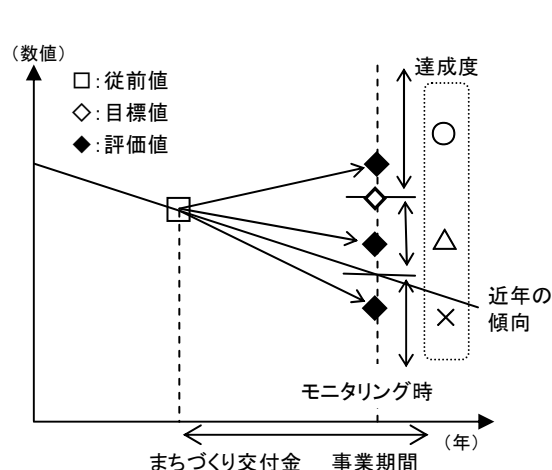
■ <参考> 達成度の考え方

- 数値目標がモニタリングの時点で達成されているか否かは、「達成度」をもって検証する
- 「達成度」は○、△、×の記号により評価を行うが、その概念は下図に示す通り、目標値（◇）と評価値（◆）との間の差の大きさ（絶対値）と位置関係（目標値よりも上か下か）により市町村が判定する（達成度の基準は、次ページ⑦参照）

■ 近年の傾向が増加基調の指標の場合の例



■ 近年の傾向が減少基調の指標の場合の例



- なお、○、△、×を判定するための目安として次の式による「達成指数」を参考にしてもよい

$$\text{達成指数} = \frac{\text{評価値}}{\text{目標値}}$$

※評価値：モニタリングに用いる値、目標値：事前評価時に目標として設定した数値

※達成指数が1の場合に目標が達成され、1より離れるに従い目標を達成している（○）、あるいは、目標を達成していない（△あるいは×）という意味になる。

※指標の性格や目標の設定の仕方により達成指数の解釈が異なるので、達成指数によって目標の達成・未達成を判別する場合には注意が必要である（例えば、近年増加基調である事故発生件数の減少を指標として設定している場合は、値が1よりも小さいほど目標を大きく達成していると解釈できる）。

※目標値が0の場合等においては、適宜、式を定義してよい。

- 上記の式に基づく「達成指数」は、あくまでも市町村が「達成度」（○、△、×）を判定するための参考となる目安であり、添付様式への記入や公表の対象ではない。また、「達成指数」を用いた判定方法そのものも任意である。同様に、進捗管理や総合所見を考える場合等においても、適宜、参考にしながら任意に活用するものとする
- 数値目標の達成状況、数値目標以外の効果発現状況の結果は、後述の「モニタリングの所見」の中で「改善策」を追加作成すべきか否かの判断材料となる